

おおいで20日 ヨウ素剤配布

県は十日、おおい町の関西電力大飯原発から放射性物質が飛散する事故に備え、甲状腺被ばくを防ぐ安定ヨウ素剤の住民配布を二十日から始めると発表した。県内では十月三十一日から配布が始まっている高浜町に続き二例目。おおい町と共同で実施する。

大飯原発からおおむね五キロ圏内の大島半島の住民二百八十二世帯、三歳以上の

七百四十七人が対象。二十八日まで計五回、はまかせ

交流センター(同町大島)で、いずれも午後七時から配布する。

医師が効用や服用方法を説明後、問診票を基に保健師、薬剤師、医師が問診。三〜十二歳は丸剤一錠、十三歳以上は二錠を渡す。アレルギー症状が出るなど「不適」と判断した人には配らない。三歳未満は一錠でも適量を超えるため配布しない。事故時は優先的に避難させ、避難所などで薬剤師が調製した液状のヨウ素剤を服用してもらう方針。

本年度中に関電の大飯、美浜両原発と日本原子力発電の敦賀原発から五キロ圏に入る敦賀市、美浜町、小浜市でも配布の調整を進めている。計五市町で三千九百四十一世帯、一万百六十人が対象となる。(塚田真裕)